



加藤 元の



と暮らして
みませんか

1

いま、世界中でペットたちが市民権を得ています。ニューヨークやパリ、ロンドン、そして東京でも大都会の集合住宅でペットを飼う人が増えています。

でもなぜ、ペットといえば犬と猫なのでしょうか。実は、地球上に人類が誕生して以来、「人と動物と自然」とは切っても切れない絆で結ばれています。哺乳動物の中でも犬や猫、馬、牛、羊、ヤギなどは常に人間の集落の近くで暮らしてきました。猛獣や爬虫類など他の野生動物と違い、人との相性がいいのです。

なかでも犬と猫は別格です。狼を祖先とする犬は狩りに役立ち、

伴侶動物

成長や教育に欠かせない存在

番犬の役も果たします。農耕が始まり、穀類の保管が大切になると、大敵のネズミから猫が守ってききました。犬と猫は人と、いい関係で暮らしてきたのです。

しかし現代の人々が犬や猫と暮らすのは、役立つというより、命と心の「ふれあい」を求めているからです。「生きもの同士」の相互作用の研究が進み、今では世界で「人と動物との絆」(ヒューマン・アニマル・ボンド)の大切さが叫ばれています。

ペットとは「所有物」の関係ではなく、相互に影響し合う間柄です。犬や猫は、人の成長や教育に欠かせないコンパニオン・アニマル(伴侶動物)なのです。次回からは、犬や猫との上手な付き合い方に入りますよ。

かとう・げん 昭和7年9月8日、神戸市生まれ、71歳。北海道大獣医学部卒。神戸市立王子動物同獣医技師を経て、44年、東京でダクタリ動物病院開設。現在、同病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長、社団法人日本動物病院福祉協会常任学術アドバイザー。コロラド州立獣医科大と北京農業総合大獣医学部で教鞭をとる。著書に『犬の飼い方』『猫の飼い方』(ともに池田書店)など。

《産経新聞2004年4月4日掲載》